

いしかわ百万石文化祭2023

(第38回国民文化祭、第23回全国障害者芸術・文化祭)

基本構想

令和3年3月

石川県

1 基本的な考え方

(1) 開催意義

本県の先人たちは、長い海岸線と白山連峰をいただく豊かな自然の恵みに寄り添いながら、さまざまな地域の人々との交流を通じて、活力ある独自の歴史と文化を積み重ねてきました。

本州のほぼ中央部に位置する石川県は、能登、加賀、金沢の3つの地域に分けられ、それぞれが特色を有しています。

能登には、農山漁村の原風景や多様な生物資源など、全国で初めて世界農業遺産に認定された里山里海が広がり、加賀は、霊峰白山から流れ出る河川によって肥沃な平野が開け、全国屈指の温泉地としても知られています。

そして、県都金沢には、加賀百万石の歴史と伝統文化が今もなお息づいており、長町武家屋敷群など藩政期の面影を残した街並みも保存され、古き日本の情緒ある雰囲気味わうことができます。

本県の文化の流れを辿れば、江戸時代には、加賀藩の文化奨励政策により、九谷焼や加賀蒔絵、象嵌、金箔、友禅などの諸工芸が発展し、その技と心は、現在の「工芸王国石川」へと受け継がれています。

また、武家文化は、「加賀宝生」と称される能楽、邦楽などの伝統芸能や、茶道や華道に代表される生活文化、さらには豊かな庭園文化を育みました。

そして、明治期以降は、学術の分野において、日本を代表する学者や文学者を数多く輩出し、この高い精神性が、今日の「学都石川」の礎となっています。

このように、永い歴史の中で連綿と受け継がれ、発展してきた伝統的な文化に加え、近年では、オーケストラ・アンサンブル金沢の設立をはじめ、新たな文化の創造にも力を注いできました。

日本海側で初めての開催となった平成4年の国民文化祭石川大会は、「伝統と創造」をテーマに、こうした本県の文化の魅力を国内外に発信するとともに、文化に関する県民の意識の向上にも資するなど、その後の本県の文化振興の取り組みに大きな弾みとなりました。

この大会以降、「ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭」や「いしかわ・金沢風と緑の楽都音楽祭」などの大規模イベントが創設され、定着するとともに、県立音楽堂や新県立図書館の整備、金沢城公園の史実に沿った復元整備、さらには、政府機関の地方移転の一環として国立工芸館が本県に移転するなど、文化の基盤づくりも進んでいます。

加えて、近年、県内各地の祭りや、「奥能登のあえのこと」「能登のアマメ

ハギ」などの年中行事、海女文化などが、ユネスコの無形文化遺産や日本遺産、国の重要無形民俗文化財に認定されるなど、国内外から高い評価を受けており、これらの幅広い地域固有の文化（ふるさと文化）が、本県の文化の土壌に一層の厚みを加えています。

平成27年3月の北陸新幹線金沢開業以来、国内外から想定を超える多くの皆様に、本県にお越しいただいており、これは、本県のこうした多彩で豊かな文化の魅力が高く評価をいただいている証だと考えています。

県では、同年に、県民、文化団体、行政が一体となって文化振興を目指す「いしかわ文化振興条例」を新たに制定するとともに、120億円規模の「いしかわ県民文化振興基金」を創設し、文化団体の活動を強力に後押しするなど、新幹線開業を機に、さらなる文化の発展に向けた取り組みを加速しています。

こうした中、北陸新幹線の県内全線開業（福井県敦賀開業）が間近に迫っています。

国内外からさらに多くの人を呼び込むことが期待できる新幹線全線開業は、いわば「第二の開業」であり、本県の文化振興にとっても、大きなチャンスとなります。

令和5年の「いしかわ百万石文化祭2023」では、県内各地で多彩な文化イベントを展開することにより、全世界に向けて、石川の文化の魅力を余すところなく発信し、大会の盛り上がりをも、令和6年春の新幹線県内全線開業につなげ、「第二の開業」効果を県下全域に波及させていきたいと考えています。

大会の開催にあたっては、市町や文化団体など関係機関と緊密に連携しながら、県民総ぐるみで、国内外からの出演者・来場者をお迎えし、誰もが分け隔てなく文化を創造し、鑑賞し、参加する「県民総参加による石川ならではの国民文化祭」を目指していきます。

また、今回、2回目の開催となることから、改めて、県民一人ひとりが石川の文化の価値を再認識することにより、未来に向けて誇りと愛着を持って、文化の継承と発展に取り組んでいく契機にもしていきます。

(2) 基本方針

「いしかわ百万石文化祭2023」を開催するにあたっては、今後の国内外の文化芸術のさらなる発展につながる大会となるよう、以下の6つの柱のもとに取り組みます。

① 県民総参加の文化の祭典

全市町を会場に多彩な文化事業を展開し、子どもから高齢者、障害のある人、在住外国人などすべての県民が、文化の担い手や鑑賞者、また、大会を支えるボランティアとして主体的に参加することにより、本県の文化の価値を再認識し、誇りと愛着を感じることができる文化の祭典とする。

② 次世代への継承・発展

子どもをはじめ、学生、若手芸術家などが、企画、発表、交流などさまざまな形で参加し、国内外の優れた文化芸術に触れる経験を通じて、技能を磨き、意欲や興味を高めることにより、文化の継承と発展、新たな文化の創造に寄与する次代の担い手の育成につなげる。

③ 石川ならではの文化資源の活用

藩政期より連綿と受け継がれてきた伝統芸能や伝統工芸などの伝統文化、オーケストラ・アンサンブル金沢に代表される新たな文化、さらには、里山里海をはじめとする豊かな自然環境や、食、祭り、温泉など歴史や風土の中で培われてきた地域固有の文化「ふるさと文化」、文化の創造・発信拠点である文化施設などを活用することにより、本県ならではの幅広い文化の魅力を発信し、国内各地における文化の発展、新しい文化の創造にもつなげる。

④ 文化の力による観光の推進

本県ならではの優れた文化を観光資源と位置付け、県内各地において、地域の特色を生かした魅力あるイベントや、体験型・参加型のプログラムなどを展開することにより、国内や海外からの誘客を積極的に図るとともに、金沢・加賀・能登を広く周遊いただき、多くの人との交流を促進する。

⑤ 文化と地場産業の連携

伝統文化や祭礼、歴史ある建造物や街並み、日常の暮らしなどの地域文化を支えてきた地場産業の技術に光を当てたプログラムを展開することにより、新たな価値を創造する意欲を高め、地場産業のさらなる発展と地域の活性化につなげる。

⑥ 文化を通じた国際交流の推進

留学生などの在住外国人や外国人旅行者が、本県の文化を体験し、県民と交流するほか、これまでの国際交流事業で培ってきた幅広いネットワークを活かした取り組みにより、文化を通じた国際交流の推進を図る。

2 開催概要

(1) 名称

① 正式名称

第38回国民文化祭

第23回全国障害者芸術・文化祭

② 統一名称

いしかわ百万石文化祭2023

(2) キャッチフレーズ

ぶんかけんらん

文化絢爛

(3) 主催者

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県実行委員会、市町、文化団体 等

(4) 会期

令和5年9月から11月の間で、50日間程度

(5) マスコットキャラクター

県民に定着している石川県観光PRマスコットキャラクター「ひやくまんさん」を、本大会用アレンジします。

(6) ロゴマーク

開催気運の醸成を図るため、公募により決定します。

3 開催準備計画

年 度	計 画
令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> ○ ロゴマークの決定(前年度に公募) ○ 県実行委員会の設置 ○ 国民文化祭企画会議、全国障害者芸術・文化祭企画会議の設置 ○ 市町実行委員会の設置 ○ 県実行委員会による基本構想の承認 ○ 国実行委員会による基本構想の承認 ○ 実施計画の策定 ○ 各種PRイベントの開催
令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県実行委員会による実施計画の承認 ○ 国実行委員会による実施計画の承認 ○ 事業別実施計画の策定 ○ 開催要項、募集要項の作成、配布 ○ 各都道府県に出演者・団体の推薦依頼 ○ 各種PRイベントの開催 ○ 沖縄県大会閉会式における引継式への出席、次期開催県アトラクションの実施
令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各種PRイベントの開催 ○ 出演者・団体の決定 ○ 協賛事業、応援事業の実施 ○ いしかわ百万石文化祭2023の開催 ○ 実施報告書、公式記録の作成 ○ 県実行委員会の解散 ○ 市町実行委員会の解散